

群馬県立吾妻特別支援学校

特別支援教育の支援センターとして



皆さんを応援します!

お申込み・問合せは、専門アドバイザー (毒島久幸) までお願いします。

【相談支援室 (小中学部校舎)】

電話番号 0279-51-1111 FAX 番号 0279-75-3701

※8月21日 吾妻地区コーディネーター研修会Bが行われました

講義 「園・通常学級と児童相談所との連携」

講師 群馬県北部児童相談所 発達支援係補佐 (発達支援係長)

高橋 幸代 先生

研究協議

「園・学校と外部機関との連携におけるコーディネーターの役割～連携における課題等」

今回の講義では、保護者が児童相談所を利用するために、コーディネーターを中心とした学校がどのように対応することができるかを分かりやすく説明をしていただきました。その講義を受けまして、参加された先生方から貴重なご意見をいただき、次のページからまとめております。ぜひ参考にさせていただきたいです。

I 「講義」について

1 今回学んだこと

(1) 児童相談所と療育手帳に関する知識や手続き

○ 児童相談所について

- ・ 児童相談所の役割や機能、仕組み、相談内容について理解が深まった。
- ・ 園から直接、児童相談所に相談できることや、保護者も面接に立ち会えること、結果を共有できることを知った。これまでは保健センターを経由する必要があると考えていた人も多かった。
- ・ 児童相談所の利用方法や、保健センターだけでなく園や教育委員会からも連携できることを学んだ。
- ・ イメージしていたよりも、児童相談所が幅広く相談できる機関だと分かった。

○ 療育手帳について

- ・ 療育手帳の取得までの流れや再判定があること、申請方法について詳しく知ることができた。
- ・ 療育手帳の区分や、取得することで得られる福祉サービスなどのメリットについて理解が深まった。
- ・ 発達障害の場合、知的障害がないと療育手帳の取得にはつながらないことや、医療機関の診断と児童相談所の判定が必要であること、診断は医療機関が行うことを再確認できた。
- ・ 療育手帳の取得を考えている保護者への案内や、就労を見据えた生徒への声かけに役立つと感じた。

(2) 保護者支援と関係機関との連携

○ 保護者への向き合い方

- ・ 保護者の障害受容には、節目ごとの葛藤や揺り戻しがあることを改めて感じ、寄り添うことの大切さを認識した。
- ・ 保護者の思いが変化していくことを念頭に置き、不安にさせないように、小さなことを見逃さないよう注意していきたい。
- ・ 保護者が「困ったときに相談できる場」として、具体的に、そして正しく情報を伝えていくことが重要だと感じた。

○ 連携について

- ・ 保護者の気持ちを大切に、その都度、年齢に合った情報提供を積極的に行うことの重要性を学んだ。
- ・ 螺旋状のアプローチで、関係者全員が同じ視点を持って取り組むことの必要性を感じた。
- ・ 児童相談所へのつなげ方だけでなく、他の外部機関への連携にも応用できるヒントを得た。

(3) 今後の実践と活用

○ 学んだことの活用

- ・ 今回の研修内容を、療育手帳の取得を考えている保護者への案内に生かしたい。進学を控えた児童の保護者への伝え方について参考になった。
- ・ 知的支援学級に在籍する生徒の就労支援において、療育手帳取得を勧める際の具体的な流れや声かけ方法が分かった。

○ 感想と気づき

- ・ 療育手帳について詳しく知ることができ、今後のサポートに役立つと感じた。
- ・ 保護者や本人の障害受容の葛藤について考えさせられた。

- ・ 児童相談所を利用するメリットを正しく伝えることが、関係者にとって大切だと感じた。

2 新たな疑問・課題

(1) 保護者との関わりと支援の進め方

○ 伝え方と障害受容の課題

- ・ 保護者が子どもの発達の課題を受け入れることの難しさを実感しており、どのように伝えればよいか悩んでいる。
- ・ 保護者のペースを尊重しつつ、子どものためにどう支援を進めていけばよいのかが課題だと感じている。
- ・ 保護者からの相談や、保護者の「心の揺れ」に寄り添い、サポートできる場や人が必要だと考えている。

○ 具体的な対応への疑問

- ・ 子どもに問題行動（暴言・暴力）がある場合、保護者がなかなか動いてくれないときに、どのように対応すべきだったのか。
- ・ 特別支援コーディネーターとして、保護者面談への同席など、どのように動くのが適切なのか。

(2) 関係機関との連携と役割

○ 連携のハードルと方法:

- ・ 園から直接、児童相談所に相談を提案するのはハードルが高いと感じており、保健センターなどを介した方がスムーズではないかと考えている。
- ・ 教育と福祉の連携が具体的にどのように行われているのか、また、各関係機関と連携を取るための方法について知りたい。

○ 連携先と情報共有:

- ・ 通常学級に在籍する発達障害の傾向がある子どもを、どの外部機関につなげていけばよいのか。
- ・ 保護者が児童相談所に相談に行く際、学校での様子をまとめた情報を保護者の同意を得て渡す方がよいのか、その際の連携方法はどうすればいいのか。
- ・ 吾妻郡のような地域では、どのような外部機関があるのか。

○ 児童相談所の役割:

- ・ 児童相談所の役割が幅広いにもかかわらず、保護者が正しく理解する機会が少ないのではないのか。
- ・ 発達障害に関する児童相談所への相談件数が増えているのか知りたい。
- ・ 虐待や育児相談の中で、知的障害や発達障害が疑われるケースにはどのように対応しているのか。

(3) 校内での支援と知識の活用

○ 教育現場での課題

- ・ 知的障害はないものの、学習についていけない子どもをどう支援していけばよいのか。
- ・ 支援学級でIQの幅が広い子どもたちを同じクラスで指導する場合、授業の組み立てや教材準備の工夫が大変ではないかと感じている。
- ・ 特支CNとして、他の学級の授業を参観して子どもの行動観察をしたいが、時間的に難しい。

○ 知識とメリット

- ・ 療育手帳の具体的なメリットや活用方法がよく分からず、さらに詳しく知りたい。
- ・ 発達障害の診断ができる医療機関とどのように連携していけばよいのか。

II 「研究協議」について

I 今回学んだこと・気づき

(1) 連携と情報共有の重要性

○ 切れ目のない支援:

- ・ 児童が園から小学校、中学校、そして高校や就労先へと進む中で、**上級学校や外部機関へのスムーズな引き継ぎ**が必要であること。
- ・ 卒業後も支援を続けるために、**外部機関とのつながりを早期に構築**し、情報を継続的に提供していくことの大切さを学んだ。

○ 情報共有のあり方:

- ・ 関係機関（支援センター、医療機関など）との連携、つなぎ方、情報共有の必要性を再認識した。
- ・ 保護者の同意を得て、**園や学校での様子を具体的に伝える**ことで、外部機関との共通理解を深められる。
- ・ 協議を通じて、**対面で情報交換**することの重要性や、他校の実践から学ぶことの有効性を感じた。

(2) 関係性構築と役割

○ 信頼関係の構築:

- ・ コーディネーターと担任、そして担任と保護者の間で**信頼関係を築く**ことが、スムーズな支援の鍵である。
- ・ コーディネーターは、担任や保護者から相談されるだけの専門知識（進学、就労、福祉サービスなど）を持つことが大切だと感じた。

○ コーディネーターの役割:

- ・ コーディネーターは、**担任と保護者の橋渡し役**となり、中立の立場で相談に同席するなど、多様な役割を担う必要がある。
- ・ 園のコーディネーターが児童の検査に同行することで、保護者の安心感につながり、情報の誤解を防ぐことができる。
- ・ 保護者や外部機関との関係性構築には難しさもあるが、**一番身近な存在として関わっていくこと**の重要性を感じた。

(3) 保護者と周囲の理解促進

○ 障害理解・受容の難しさ:

- ・ 本人や家族の**障害受容には様々なケース**があり、とても難しいことを再確認した。
- ・ 保護者の不安を取り除くために、**きめ細かく情報を提供し、寄り添うこと**の必要性を感じた。
- ・ 障害受容を促すためには、**すぐに成果が出なくても、その都度、適切に情報を伝えていく**ことが大切である。

○ 具体的な支援のヒント:

- ・ 町村によっては、保健センターと連携して心理士や保健師が園を定期的に訪問している事例があり、これは**保護者への情報提供や安心感につながる**良い取り組みだと感じた。
- ・ 児童相談所について、保護者が広く知る機会が少ないため、周知方法を工夫する必要がある。
- ・ 児童を取り巻く周囲の人々（保護者、園・学校の職員、他の児童）が障害を理解し、受け入れるための働きかけも重要である。

2 新たな疑問・課題

(1) 知識と情報収集の必要性

- ・ **CN 自身の知識・情報不足**: 外部機関や行政サービス、市町村ごとの制度の違いなど、様々な情報を広く深く知っておく必要性。
- ・ **情報共有の課題**: 保育・幼稚園の情報が学校に引き継がれず、これまでの支援が活かされない現状や、園内でCNの動きや外部機関との連携について情報共有が不足している点。
- ・ **効率的な情報収集**: 多岐にわたる外部機関の情報を、効率よく、分かりやすく収集し、保護者や担任に負担なく提供する方法。

(2) 関係者との連携と信頼関係の構築

- ・ **保護者との関係構築**: 保護者と面識が少ない場合に、どのように信頼関係を築き、話を切り出すか。面談への同席を良い機会と捉える意見や、より積極的に話しかけることの重要性。
- ・ **外部機関との連携**: 外部機関とスムーズに連携する難しさや、どこにつなげられるかという具体的な方法についての疑問。
- ・ **CNの役割**: CNが担任、保護者、関係機関の間に立ち、橋渡し役となることの重要性と、そのための具体的な方法。

(3) 一貫した支援の実現

- ・ **周囲の理解不足**: 子どもの支援には、家族や周囲の障害への理解が不可欠であるものの、その理解を得るのが難しいという現実。
- ・ **継続的な支援**: 一人の子どもに対し、CNとしてどのように一貫した視点を持ち、支援を継続していくか。
- ・ **情報の活用**: 情報や制度をただ知るだけでなく、それらを活用しながら、保護者や子どもに寄り添った支援につなげていくことの重要性。

III 今回のテーマ以外で、今後コーディネーターとして学びたいこと、研修したいこと

(1) 外部機関との連携強化

- ・ **具体的な情報収集**: 児童相談所以外の外部機関がどのような働きや役割を持っているのか、具体的に知りたい。
- ・ **連携事例の共有**: 実際にうまくいった連携事例や、様々なケース(幼・小・中)を通して、具体的な連携の進め方や方法を学びたい。
- ・ **連携の機会**: 保健師や教育委員会、小学校、こども園などが顔を合わせて情報共有できる機会を増やしたい。

(2) 個別支援と保護者理解

- ・ **個別支援計画**: 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」などの書式や様式について、地域での統一の可能性を含めて知りたい。
- ・ **通常学級での支援**: 通常学級に在籍する発達障害傾向の児童への効果的な支援方法や、集団の中で個別支援の具体例について学びたい。
- ・ **保護者との関係構築**: 子どもの困り感を保護者が認めないケースへの対応や、医療機関へのつなげ方など、保護者との信頼関係を築くための関わり方について学びたい。

(3) 専門知識と啓発

- ・ **専門知識:**自立活動の内容や展開、特別支援学校・学級での学びの内容、さらには手帳判定テストの具体的な内容(どのようなテストで、どんな点を見ているか)など、専門的な知識に関する研修。
- ・ **啓発活動:**通常学級の児童や保護者に対して、どのように啓発を進めていけばよいか、具体的な方法を学びたい。
- ・ **長期的な視点:**義務教育後の進路や、町全体で子どもたちを長いスパンでサポートしていくための関係づくりなど、長期的な視点での支援を考える機会を求める意見もあった。

IV その他

(1) 研修内容と学びについて

- ・ 様々な先生方や他の園の実情について具体的な話を聞くことができ、大変参考になりました。
- ・ 児童相談所の役割や面談の流れなど、これまで知らなかったことを知る良い機会になりました。児童相談所をより身近に感じられるようになりました。
- ・ コーディネーターとして担任や保護者の方の力になるために、どうすべきか多くの視点から考えるきっかけになりました。
- ・ 子どもたちにとって大切な1年をより有意義にするための体制づくりが重要であると学びました。

(2) 今後の実践について

- ・ 今回得た学びを活かし、「分からないことは自分から情報を取りに行く」ことを実行していきます。
- ・ 担任が保護者との信頼関係を築くためのコーディネーターとしての役割を、今後も積極的に担っていきたいです。
- ・ コーディネーターとの連携を心掛け、外部機関について知識を深めることで、相談時に多様な提案ができるように努めていきたいです。
- ・ 他の園の事例を参考に、実践できることは取り入れていきたいです。

(3) 今後の研修に対する要望

- ・ 1~2年目のコーディネーターも参加対象とすることで、全体の資質向上につながる可能性があります。→1~2年目のコーディネーターを対象として県教育委員会で「特別支援教育コーディネーターの養成研修」が実施されています。本研修は3年目以上経験のあるコーディネーターを対象としているため参加していただけないのですが、1~2年目のコーディネーターの方には養成研修に参加していただき、コーディネーター業務に生かしていただければ幸いです。
- ・ 外部機関の方から直接お話を聞く機会があると、さらに理解が深まると考えます。